# V329a　X線分光撮像衛星 (XRISM) 搭載軟 X 線撮像装置 (Xtend) の開発の現状 (5)

林田清 (大阪大学), 冨田洋 (ISAS/JAXA), 森浩二 (宮崎大学), 野田博文, 松本浩典, 常深博 (大阪大学), 内田裕之, 田中孝明, 鶴剛 (京都大学), 中嶋大 (関東学院大学), 村上弘志 (東北学院大学), 幸村孝由, 萩野浩一, 小林翔悟 (東京理科大学), 平賀純子 (関西学院大学), 内山秀樹 (静岡大学), 信川正順 (奈良教育大学), 信川久実子 (近畿大学), 岡島崇 (NASA/GSFC), 吉田鉄生, 石田学, 前田良知, 堂谷忠靖, 尾崎正伸 (ISAS/JAXA), 山内誠, 廿日出勇 (宮崎大学), 山岡和貴 (名古屋大学), 他 XRISM/Xtend チーム

2022 年度に打ち上げ予定の X 線分光撮像衛星 (XRISM) には、軟 X 線撮像装置 Xtend が搭載される。Xtend は、X線ミラー (XMA) と CCD カメラ (SXI) で構成され、4 枚の素子を 2×2 に配置することで 0.4−13 keV のエネルギー範囲で、 38 分角四方の広視野分光撮像を実現する。2020 年秋季年会で報告した通り、SXI のハウジングやエレクトロニクスなどの製作および機能検証試験はほぼ完了し、最終組み立ての状態にある。2020 年 12 月にサブシステム全体での機能・性能評価試験を実施予定で、その後、熱真空試験も予定している。並行して、CCD のフライトモデル (FM) 4 素子に関して、ゲイン・電荷転送非効率（CTI）等の各種パラメータの決定や応答関数の構築をすすめ、キャリブレーションデータベース (CALDB) としてとりまとめている。今回の講演では、Xtend/SXI の製作・試験・解析の最新状況および、衛星試験に向けた今後の見通しについて報告する。